

人とモノ、人と人の よりよいコミュニケーションを 構築するために。

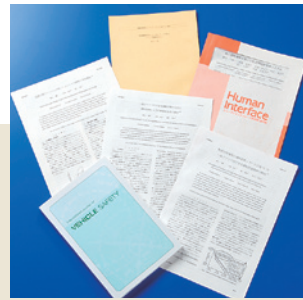


人間情報学部
國分三輝 准教授

【学歴】
1994年3月 筑波大学第二学群人間学類卒業 学士（人間科学）
1996年3月 筑波大学大学院修士課程環境科学研究科環境科学専攻修士（環境科学）
2009年7月 早稲田大学大学院人間科学研究科に学位論文を提出 審査合格博士（人間科学）

【職歴】
1996年4月 株式会社豊田中央研究所入所（～2010年3月）
2005年10月 愛知淑徳大学文化創造学部非常勤講師（兼務）（～2006年3月）
2010年4月 愛知淑徳大学人間情報学部准教授

國分先生は大学で心理学を修めたあと、心理学を使って子供の頃から好きだった車の研究をしたいと豊田中央研究所に入社。交通心理学を用いて、主にトヨタ車に安全に乗ってもらうための研究を14年続けた後、この春より本学へ赴任されました。「社会に貢献できる研究をどんどんやっていきたいですね」。ヒューマンインタフェースは、コンピュータが普及した現在、「人とモノとの関係」をよりよく築くために世界的に注目されている新しい学問領域です。「安価で万人受けする商品から一人ひとりにとって価値が高いモノをどう作り出すか。理想は、ロボットに人とコミュニケーションできる心を持たせること。そうすれば、人と人のコミュニケーションにも役立つはず」。ロボットは将来が期待できる日本発の産業です。景気が低迷する現在、「この地域を元気にできる産業を作りたいける学生を育てていけたら」と抱負を語っていただきました。



【國分先生の主要論文リスト】
（○論文単著 □論文共著）
□「個人感性情報を用いた住空間設計支援システム」ヒューマンインターフェース学会論文誌Vol.3 2001年
□「Quantitative assessment of driver's risk perception using a simulator」International Journal of Vehicle Safety Vol.1 2005年

- 「ITS時代のヒューマンファクター—リスク知覚を中心に—」 IATSS Review Vol.30 2005年
- 「危険予測トレーニング用シミュレータの開発と効果検証」自動車技術会論文集Vol.38 2007年
- 「一般ドライバの不安全運転行動の分析と運転指導による行動変容効果の測定」自動車技術会論文集Vol.40 2009年
- 「教習所指導員の運転診断ノウハウに基づいた一般ドライバ向け安全運転評価指標の検討」自動車技術会論文集Vol.40 2009年

感

性工学、ヒューマンインタフェースという分野が私の専門です。日常生活にはモノや情報が溢れています。日常の生活にはモノや情報が溢れています。大量の情報も、受け取る人次第、伝え方次第では、その価値が下がってしまいます。一人ひとりに合ったモノの選び方や情報の伝え方ができれば、モノや情報の価値が上がります。そんな、人とモノ・情報との関わりを扱う分野で、「人にやさしい、安心・快適なモノや情報づくり」の研究です。

例

例えば私たちはクルマを買う時、外観や内装のデザイン、エンジンや足回りの味付け、シートのに座り心地、その他様々な仕様・装備を考慮します。あるライフスタイル

やライフステージの人たちにとって、これら諸要因の何がどれくらい影響している、どうすればより好まれるかについて、心理学的な調査実験から、具体的な設計の提案までを行います。

ま た、最近のクルマには様々な安全・便利のためのシステムが付いていますが、お客様に正しく使っていただけなければ意味がありません。開発者の想定通りに使ってもらえるか、簡単に使えるか、間違いを誘発しないか、過信を招かないか、システムが運転の妨げにならたりしないかなどの評価も行います。

ト

ヨタグループの中央研究所から、この4月に赴任しました。ですから、本学での研究活動は本格化していませんが、大学に來たのですから、クルマに限らず、コンピュータ、ケータイ、ゲーム、ロボット、デジタル家電・玩具など、生活に新しく入ってきている情報機器にまで対象を広げたいと考えています。

学

生の皆さんには「現地現物」というトヨタ・マインドを伝えていきたいです。研究は誰かの役に立つことが大切です。そのためには、研究対象となる現地に行つて問題の本質を感じ取ることで、研究成果を具体的なモノや情報（現物）として形にすることが大事です。モノづくりの盛んなこの地域で活躍するために、現地現物を身につけてほしいと思います。